



山 端 博
(明政一心会)

少子高齢化の中で コンパクトシティをどう進めるか

都市機能の維持や 居住の誘導を推進する

問 加速する少子高齢化等の社会情勢の変化により人口が減少していく中で、安全で暮らしやすい生活環境を守らなければならないが、コンパクトシティ（集約型都市構造）をどのように進めるのか。

答 市立地適正化計画により、地域交流センター（とわふる）やまちなか交通広場の整備で都市機能の充実を図り、市営住宅の建て替えで居住の誘導を進め、コンパクトなまちづくりを促進してきました。今後は都市機能を維持し、居住誘導区域内への居住を推進し、インフラコストの縮減を図り、将来的に持続可能なまちづくりに努めていきます。

問 居住誘導区域の計画策定時の人口密度と今後の目標値は。

答 計画策定時と同じ1ヘクタール当たり32.6人を令和20年の目標値としています。

問 信号機のない横断歩道での安全対策は。

答 歩行者が優先であることを広報とわだへの掲載や、チラシを作成して小中学校、北里大学や老人クラブ連合会を通じて配布し、ドライバーに注意を促してきました。令和4年度は、新たに歩行者優先を呼びかけるマグネット式のステッカーを市公用車に掲示しているほか、十和田警察署と協議し、交通事故の発生状況や夜間の照明が届かない横断歩道のうち5か所に照明灯を設置しました。

問 積み上げられた雪で見通しが悪くなり、車と歩行者双方の安全を妨げている。歩行者の横断をドライバーに知らせる警告灯を設置する考えは。

答 冬期間の安全性や費用対効果などを調査研究したいと考えています。



山 田 洋 子
(柊の会)

買物が困難な市民への支援を

事業改善や実証運行で 利便性を高める

問 買物が困難な市民を把握し、支援を行っているのか。

答 令和4年度に実施したアンケート調査ではさらなる利便性の向上や公共交通空白地での移動手段の確保を求める声が上がっているため、現在運行している市街地循環バスや西地区シャトルバス等の既存事業の改善や新たな移動サービス導入の実証運行等に取り組むこととしています。

問 高齢者や免許返納者、休屋地区等の要望から住民を乗せる買物支援バスを運行する考えは。

答 検討はしていないが、様々な地域から市内への通勤、通学等で活用できるバスについては、新たな地域公共交通計画で検討していきたいと考えています。

問 キャッシュレス決済のペイペイと自治体が協力し、ポイント還元や特典が与えられるキャンペーンにより観光消費や生活品の購入などで消費の拡大につなげる取組が全国で行われている。市内外から多くの消費を呼び込み、市全体を振興するため、当市でも行う考えは。

答 市内事業者のキャッシュレス決済導入の普及や機運の高まりにより、判断したいと考えています。

問 中学校卒業後の社会的自立にもつなげるよう、不登校児童生徒が通学に対する心理的な負担を軽減するためのオンライン学習支援に取り組む考えは。

答 現時点では行っていませんが、オンライン授業の視聴は、技術的には通信環境が整えば可能となります。しかし、取組を学習機会の確保とするには、内容や方法を十分に検討し、慎重に進めることが重要であると考えています。